

多摩川河口干潟の観察

観察者：大野幸正

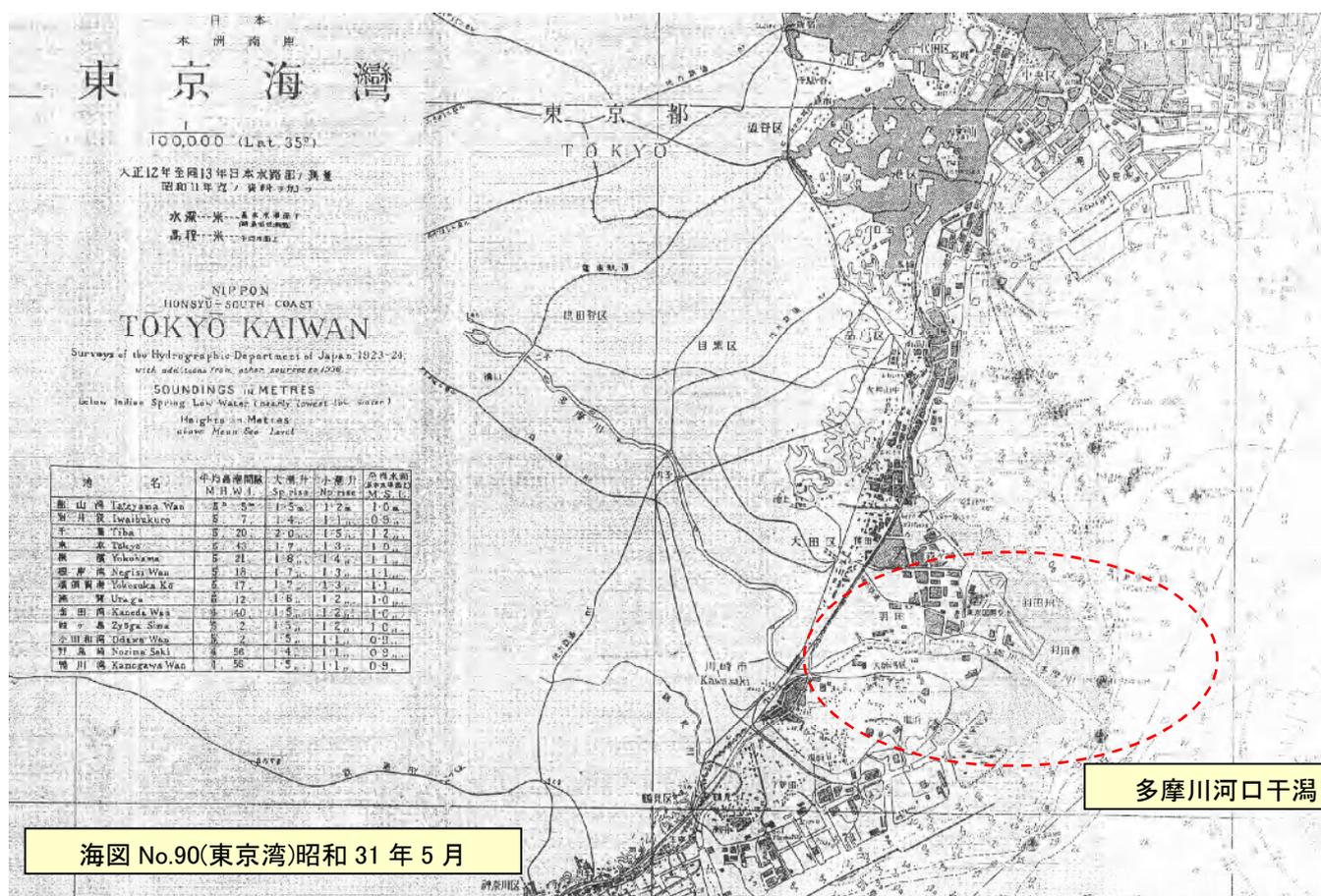
日時：2011年5月6日（金）

場所：多摩川河口干潟右岸側（川崎市側）

観察したのは下図の赤い点線の範囲で、ここ数年見ている限りではシジミの場所です。今年も干潟の豊かさを感じることができませんでした。置き砂をすると貝類が増えると言われております。ダムの堆砂を使うなど、試験的にやってみる価値がありそうですね。



図 観察のエリア



A のエリアから河口方向を見た写真です。ぬかるみやすい砂泥の干潟で、水際でシジミが比較的多く採れました。昔はすぐそばが海で、アサリが多くいた場所です。

シジミ採りでは、10 リットルバケツに半分くらいシジミを持ち帰る人もいましたが、アサリは見かけませんでした。



ヨシ際は泥っぼい干潟で、ソトオリガイがすぐに見つかりました。アシハラガニとオサガニ類の巣穴も見えました。



ヨシ際と水際の中の少し小高い所は砂地で歩きやすく、コメツキガニ〈またはチゴガニ〉が巣穴から運び出した粒状の砂が所々にありました。ここはシジミが少なかったです。



水際はネットの泥干潟。「シジミとり」さんが多いのは、このあたりです。



なんか、ほっとしてしまう景色ですね。



Bのエリア

雰囲気は、こんな感じです。水際ではなく、比較的地盤が高くて乾いたところに「シジミとり」さんがいました。ぬかるみを避けているのでしょうか？



水際は足が沈む泥干潟で、オサガニ類がおりました。



C のエリア

結構歩いたつもりでしたが、泥砂干潟であることに変わりありません。水際は、足が沈みにくなりました。対岸では、モノレールや飛行場の建物が見えます。



水際にはハゼ類が多く玉網にかかりました。



ようやくとシオフキガイを見つけました。アサリもいました。いずれも極めて少ないと感じました。シジミ、ソトオリガイそしてマメコブシガニも見ました。



マメコブシガニ



左から、シオフキガイ、アサリ、ソトオリガイ(2個あるのはシジミ)